

長雨日照不足に伴う農畜産物等の対策技術について

令和元年 8月 26日
農産園芸課技術普及班

令和元年8月22日気象庁発表の1ヶ月予報によれば、長崎県ではしばらくの間、長雨日照不足が予想され、農畜産物への影響が懸念されますので、今後の気象情報に十分注意し、下記の対策指導をお願いします。

記

1. 普通作物

【早期水稻】

- (1) 排水溝の整備等による適期落水を行い、穂発芽、刈り遅れによる品質低下防止に努める。特に倒伏した圃場は穂発芽が懸念されるので別刈りとし混入を防ぐ。

【普通期水稻】

- (1) 軟弱徒長気味に生育している圃場では、いもち病等が発生しやすくなるので、穂揃期防除を徹底するとともに、多発圃場では農薬使用基準に留意し、追加防除を行う。

【大豆】

- (1) 排水溝の点検等表面排水対策を行い、根の活力低下を防ぐ。
- (2) ベト病等病害が発生しやすくなるので、適期防除に努める。

2. 野菜

【秋冬野菜（露地栽培）】

- (1) 長雨等により播種・定植後の生育不良とならないよう、明渠や高畝等の排水対策を徹底する。
- (2) 土壌の乾き具合や作物の草勢を観察しながら、必要に応じて追肥や液肥の葉面散布などを行うとともに病害の予防防除に努める。
- (3) 降雨により適期に定植できない苗については、軟弱徒長とならないように草勢回復のための追肥量及び灌水量には十分注意する。
- (4) 作付できない状況や、病害の発生等により多大な影響があった場合は、作型の変更や他品目の作付けを行う。

【いちご】

- (1) 炭疽病の感染・拡大防止の為、薬剤のローテーション散布を行う。
育苗圃の巡回をこまめに行い、炭疽病にかかった苗や、葉面に汚斑状斑点が見られる場合は、その周囲の株も併せて廃棄する。
- (2) 草勢が低下している株には葉面散布を行い、日照不足を補う。
- (3) 圃場準備は早めに行い、定植時期に作業遅れがないよう、雨よけやビニールのべたがけを行い定植に備える。
- (4) 苗の根量不足、体力不足が予想されるので、定植後の活着、生育促進のため、活着までの寒冷紗被覆、手かん水によるかん水、発根促進剤の施用、葉面散布の実施、など管理を徹底する。

【施設野菜（アスパラガス・トマト・ナス等）】

- (1) 日照不足・長雨の条件下では、軟弱徒長気味の生育となり、生育・着果不良の発生や病害が多発しやすいので、天候の推移と生育状況に十分留意して管理を行う。
- (3) 施設内は、多湿状態にならないよう換気扇、循環扇等を活用し換気に努める。
- (3) 灌水は必要に応じて控えめに行い、夕方のかん水は避ける。また、適切な肥培管理に努め、草勢が弱っている場合は、葉面散布などで回復を図る。
- (4) 天候回復後の高温・強日射は葉焼け等の障害を招くことがあるので、側部、谷部の開放や換気扇、循環扇等を活用し、十分な換気に努めるとともに、遮光資材等の使用による昇温抑制対策を行う。
- (5) 高温時の薬剤散布は、葉害を誘発しやすいので注意し、なるべく涼しい時間帯に行う。
- (6) 乱形果や病害果などは早めに摘除し、着果負担の軽減と病害の防止に努める。
なお摘果や整枝などの管理作業は、出来るだけ晴天の日に行い、湿度が高い曇雨天の日に行うと、傷口から病原菌が侵入して発病する恐れがあるので注意する。

3. 果樹

【果樹共通】

- (1) 園内外の排水路、排水溝の整備を行う。
- (2) 病害の発生、蔓延が懸念されるため、適切な農薬を選んで防除を行う。

- (3) 防風樹の刈り込みなどを行って、樹体によく日が当たるようにするとともに園内の通風を良くする。

【みかん】

- (1) 黒点病や小黑点病の発生が懸念されるので累積降水量などを考慮し適期に防除を行う。
- (2) 糖度の上昇が不十分な園では、果実肥大や品質及び土壌の乾燥状態を確認し、晴天日にマルチを開放して土壌乾燥を促進する。併せてカルシウム剤および植物生長調整剤の散布による果皮体質強化と品質向上対策を実施する。

【びわ】

- (1) 収穫後に果痕枝から発生した夏枝の花芽分化を促進させるため、枝の誘引を行う。特に、樹勢がやや強い「なつたより」は必ず実施する。その際、枝が裂けやすいので、枝の基部を8の字に結束してから誘引する。
- (2) 結果枝の花芽分化する時期であるが、芽かきやせん定を行うと結果枝の充実不足により花芽分化せず徒長してしまうので、9月中旬以降に頂芽のふくらみを確認してから行う。

【落葉果樹（なし、ぶどう等）】

- (1) 病害が多発すると、早期落葉および越冬病斑の増加に伴う翌年産への影響が懸念されるため、秋季の病害虫防除を徹底する。

4. 茶

- (1) 炭疽病等の病害虫の発生が懸念されるため、秋芽開葉期～生育期の防除を徹底する。
- (2) 中切りや深刈り更新した茶園以外では、8月末までに深耕で根の若返りを図る。
- (3) 秋肥を施用後、クランクカルチ等で浅耕し土壌と混和する。

5. 花き

【花き共通】

- (1) 施設栽培では多湿状態にならないように換気扇、循環扇等を活用し、換気に努めるとともに、灌水の量や間隔を加減し、病害や生理障害の発生を軽減する。
- (2) 病害の発生、蔓延が懸念されるため、適切な農薬を選んで防除を行う。

- (2) 切り花の選別については厳密に行い、花腐れ、葉の黄化（むれ）のないものを出荷する。

6. 畜産

【家畜飼養管理】

- (1) 浸水、雨漏り等により、畜舎内は高温多湿となっているため、畜舎及びその周辺の排水を図り、敷料の多給、空気の入替え、排せつ物の頻繁な搬出等により、乾燥化を図るとともに消毒を実施する。また、運動場の排水も行い乾土化に努める。
- (2) 畜舎内外の清掃、消毒を行い、細菌、ウイルス並びにその媒介物となる害虫、吸血昆虫を駆除するとともに、消化器病、外傷等異常家畜の早期発見と観察に努める。
- (3) 日光浴と畜体の綿密な手入れ（ブラッシング）による畜体の新陳代謝の促進と皮膚病の予防に努める。
- (4) 酪農経営においては、衛生的な搾乳器具の取扱いおよび搾乳後の生乳の冷却保存を励行し衛生管理に努める。

【飼料】

- (1) 飼料庫の換気等に努め、飼料の乾燥化を図る。また、飼料の湿害、虫害、変敗、カビ発生を防止するとともに、変敗又はかびの発生した飼料は給与しない。
- (2) 飼料作物の茎葉は軟弱に生育し、倒伏しやすいので、ほ場周囲の排水溝を掘り、乾土化に努めるとともに、中耕培土、追肥を実施して生育促進を図る。
倒伏又は湿害により生育の見込みがないものは、早期に刈り取り給与するか又はサイレージ、乾草等の貯蔵飼料として利用するとともに、秋冬作（イタリアン、エンバク）の早期作付け等の措置を行う。
サイロが不足するようであれば、ビニールスタックサイロ等の簡易なサイロの利用を行い、良質粗飼料の確保に努める。